

2021 年度 青森大学高校生科学研究コンテスト
SDGs 賞の授与にあたって

2021 年度のコンテストでは、昨年度に引き続き、SDGs（国連持続可能な開発目標）への社会的関心と人づくりの重要性を踏まえて、青森大学附属総合研究所 SDGs 研究センターで独自の賞を設けました。今回も新型コロナウイルスの感染拡大が広がる中でしたが、昨年の書類と動画による選考とは異なり、会場で各発表に込められた情熱や創造性を直接見聞きすることができました。

SDGs 賞の審査では、各エントリー作品が、SDGs との関係を明示しているかという観点より、それぞれの研究がどのように地域の自然環境を捉えて、その再評価（研究）を通して、青森のような人口減少の抑制や地域活性化に関連づけているかを注視し、各作品の社会貢献の可能性を評価しました。

その結果、次の 2 チームに SDGs 研究センター賞を贈ることに決定いたしました。

化学分野 弘前中央高等学校 アルギン酸-酸化チタン系光触媒材料の活性評価

（メンバー：喜多島 悠暉さん、藤田 耀さん、佐藤 琉生さん、指導教員 柴田 大毅先生）

生物分野 弘前中央高等学校 弘前の伝統野菜 清水森ナンバがもつ抗菌効果の評価

（メンバー：竹内 裕生さん、嘉手苺 日向大さん、指導教員 柴田 大毅先生）

皆さん、誠におめでとうございます。

前者は、コンブ、ワカメなど海藻類に含まれ、食品・医薬品など広く活用されているアルギン酸ナトリウムの可能性評価、そして後者は津軽の在来品種「清水森ナンバ（とうがらし）」の抗菌作用の評価。両方とも青森の自然の価値の再評価、ひいていうと中山間地域の雇用や活性化、人口減少の抑制にもつながる挑戦的な研究。地元の関係者の方々へのヒアリングを含めた課題設定や研究の緻密さ、次年度以降の課題整理など、素晴らしく多く学ぶ機会となりました。指導に当たった同校自然科学部の柴田 大毅先生、ありがとうございました。

受賞された 6 名の皆様には賞品として、陸奥湾イルカウォッチングツアーへの無料参加を贈呈いたします。このツアーは、近年青森大学社会学部清川繁人先生が陸奥湾沿岸地域の方々とともに精力的に取り組んでいるもので、皆さんの今後の勉学だけでなく、住んでいる地域、自然の捉え方にも大きな刺激になると信じて、今回の賞品とさせていただきます。

私たち青森大学附属総合研究所 SDGs 研究センターでは、教育や研究活動とはそれらを取り巻く社会と相互依存の関係にあり、研究活動の文脈依存性を十分考慮する誠実な姿勢が不可欠だと捉えて教育研究活動に励んでおります。これは SDGs というキーワードを運用する際も十分配慮すべきことだと考えています。今回、このような考え方に基づいた評価であったことについて、受賞者ならびに指導あつた教職員の皆さまにご理解いただけると嬉しい限りです。

最後になりましたが、今回応募された生徒の皆さま、指導にあつた教職員の皆さま、そしてそれらを支えた地域社会の皆さまやご家族の皆さまにあらためて感謝を申し上げますとともに、益々のご活躍ご清祥をささやかながら祈つております。

2022 年 3 月吉日

青森大学附属総合研究所 SDGs 研究センター
センター長 藤 公晴